

ご挨拶



■湘南鎌倉総合病院 院長 塩野 正喜

昨年までと異なり、印刷物を作らず、ホームページに年報を載せることにいたしました。経費削減もありますが、膨大な準備と編集をかける割には、あまり年報が活用されていないことから、データ主体の年報にすることとして、記録媒体をホームページに移行し、広く情報を発信することにいたしました。よろしく願いいたします。この1年の病院の動きを報告いたします。

2012年10月の国際機能病院評価認証JCI取得に引き続き、2013年3月にJMIP（外国人患者受け入れ医療機関認証）第1号認定を受けました。この制度は外国人が医療を受ける際に不安なく受診できるように、院内に外国語に堪能な職員（現在英語、中国語、フランス語、ロシア語対応）を専従させた国際医療室を設け、外国語表示のホームページを作成し、病院情報の発信、受診相談、外国の医療保険の適用できる体制を整え、院内案内も英語、フランス語、ロシア語、中国語などで表示し、診療現場でもスムーズに通訳が利用できるような体制を整えたことを認証します。当院ではJTBと提携し、渡航や旅行の手配なども対応しています。当院の理念にある「何時でも

何処でも誰でも最善の医療を提供する」を実行するため、従来から国内在住の外国患者や旅行中の方など多く受診されておりますが、2012年2,112名、2013年2,175名の外国人患者が外来受診しています。更なる体制を充実させて、患者さんはもとよりメディカルツーリズムを利用されるドック、健診利用者にも安心して受けられる病院造りをしていく所存です。

4月には医師31名、研修医18名、看護師97名、医療技術27名、事務30名の入職式を行い、スタッフとして肝胆膵外科、脊椎脊髄外科、精神科、消化器病科に部長を迎えることができ、更なる診療の充実を図ることができました。

4月1日付で神奈川県救命救急センター指定を受けることができました。

4月20、21日に腎臓センターの小林修三副院長が会長で日本医工学治療学会第29回学術大会を開催、6月27日鎌倉市と当院が防災協定「災害時における医療救護活動についての協定」を取り交わしました。

8月厚生労働省の「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」に基づき「自己脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた乳癌術後変形に対する再建治療」の臨床研究の認可を受け、形成外科の山下理絵部長が民間初の臨床研究を始めました。

8月1日外傷センターが開設され、土田芳彦副院長、村上裕子部長が就任いたしました。切断指再接着、広汎開放重度骨折から、小児や高齢者の骨折をはじめ外傷全般に24時間対応し、外傷専属の手術室を新設し迅速な治療により機能再建を図れる体制をさらに充実することができました。

8月26日には救命救急センター、ICU、ECUがJCI認証を取得いたしました。

9月キルギスの透析チームの研修、10月ウラジオストック透析チーム研修を受け入れ、11月にはマラウ

イ共和国透析センター開設に血液浄化部の看護師塩野恵美子副主任，徳本直彦腎移植科部長が出張支援を行いました。

9月17日徳洲会公職選挙法違反事件で，徳洲会東京本部や湘南鎌倉総合病院などに東京地方検察庁特捜部強制捜査が入りました。一連の事件は大きく報道され逮捕者も出て，地域の皆様をはじめ関係部署には多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。徳洲会の組織ぐるみの違反として摘発を受け，10月20日徳田虎雄理事長が退任，鈴木隆夫が新理事長に就任しました。11月の新体制発足後，これまでの徳洲会の活動を真摯に反省し，①家族支配からの脱却，②メディカル法人との取引の透明化，③自浄能力の発揮，④法人としての政治活動・選挙活動との決別を宣言し，新しい医療法人徳洲会として活動を始めています。

湘南鎌倉総合病院は，これからも徳洲会の原点に立ち戻り，「生命だけは平等だ」の理念のもと，病める患者さんのためにコンプライアンスを遵守し，安心して安全な医療を365日24時間提供していくことをお約束いたします。